

# (日 本 史)

〔I〕 つぎの和歌・今様A～Dを読んで、下記の問いに答えよ。

- A 大君は神にしいませば赤駒のはらばふ田居を都となしつ  
(大伴御行：万葉集)
- B 今替はる新防人が船出する海原の上に波な咲きそね (大伴家持：万葉集)
- C 故里ふるさととなりにし平城なうの都にも色は変らず花は咲きけり  
(平城天皇：古今和歌集)
- D 極楽浄土の東門は 難波の海にぞ対むかへたる 転法輪所の西門に 念仏する人  
参れとて (梁塵秘抄)

問1 Aの歌の背景の説明としてもっとも適切なものを、以下のa～dのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 当時専権を振るっていた蘇我氏を倒した中大兄皇子は、難波長柄豊碓宮において国政改革を実施し、中央集権体制の強化に努め、律令国家建設の基礎を築いた。
- b 持統上皇の指導の下、文武天皇により大宝律令が施行され、新たに平城京も造営され、日本の律令国家は完成の域に達した。
- c 聖武天皇は国力を傾けて平城京内の東大寺に巨大な盧舎那仏を铸造し、仏教の力による国家の安定を願った。
- d 壬申の乱に勝利をおさめた大海人皇子は飛鳥浄御原の地を都に定め、そこで即位した。

問2 Aの歌に詠まれている「都」の説明としてもっとも適切なものを、以下のa～dのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a この都は整備された内裏地域と朝堂地域をもつ大規模なもので、天皇は壇場を築いてそこに上り、即位した。伝飛鳥板蓋宮跡がその有力な比定地である。
- b この都では条坊制が施行され、中国にならった最初の都城となった。後の都に比べて宮殿の占める割合が大きく、天皇の権威の高さがみてとれる。
- c 白村江の戦いに敗れるという国際的な緊張状態のなかで、都は琵琶湖沿いの内陸に入った地に設置されたが、この地は陸路と内水路の交通の要衝であった。
- d この都には、具体的な地名ではなく、「国をおだやかにする」という意味の抽象的な命名がなされたが、そこには支配者の治国に対する願望がこめられている。

問3 A・Bの歌の作者である大伴氏について説明した以下のa～dのなかから、誤っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 「大伴」とは朝廷を構成する伴造のなかでもっとも有力なものという意味であるともされ、その伝承によれば、とくに宮門の警備や国家の軍事を職務としていたらしい。
- b 大伴金村は、百済へ「任那四県」を割譲したため、物部氏の弾劾によって失脚した。
- c 文武朝から聖武朝にかけて、大伴氏は藤原氏に対抗しようとしたが次第に圧せられ、橘奈良麻呂の乱や藤原種継暗殺事件を契機に、その勢力は衰えた。
- d 9世紀になると天皇の諱をはばかって、氏の名を「伴」と改めたが、承和の変で伴善男が隠岐に流されると、以後はいつそう振わなくなった。

問4 以下のa～dの4首の和歌のなかから、A・Bの歌の出典である『万葉集』に含まれていないものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 春過ぎて夏来るらし白たへの衣干したり天の香具山
- b 世間<sup>よのなか</sup>を憂しとやさしと思へども飛び立ちかねつ鳥にしあらねば
- c み渡せば花ももみぢもなかりけり浦の<sup>とまや</sup>苦屋の秋の夕暮
- d 石ばしる<sup>たるみ</sup>垂水の上のさわらびの萌え出づる春になりけるかも

問5 Bの歌にある「防人」とは古代の軍事制度の一つであるが、その軍事制度について説明した以下のa～dのなかから、もっとも適切なものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 衛士とは都城警備のために1年の任期で京に向かうもので、衛門府・兵衛府に配備された。防人は3年の任期で九州沿岸警備に向かうものである。
- b 古代においては、兵役は正丁や中男と呼ばれる18歳以上の男子のみが負担し、地方の軍団に所属したあと、そこから衛士・防人として任に赴いた。
- c 防人が配備された大宰府は、西海道諸国・諸島を統括し、外交・防衛にあたる機関として、筑前国に設置された。
- d 兵役は食料や武器を自弁するばかりでなく、任についているあいだも課税がいっさい免除されることが無かったために、大変重い負担であった。

問6 Bの歌は755年に詠まれたものといわれている。時に家持は兵部少輔で、兵部卿は橘奈良麻呂であった。以下のa～dの事項のなかから、この歌が詠まれた後に起こったものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 淳仁天皇の即位
- b 藤原不比等の4子の死
- c 藤原広嗣の乱
- d 『日本書紀』の撰上

- 問7 Cの歌は、病のため弟の嵯峨天皇に譲位した平城太上天皇が、嵯峨天皇と不和になり、奈良に移住した後に詠んだものと推定されている。このことと関わる平城太上天皇の変(薬子の変)前後の状況について説明した以下のa～dのなかから、誤っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。
- a 嵯峨天皇は、機密を守るために、繁雑な律令制の詔勅施行手続きを省略し、新たに蔵人所を設置した。
  - b 蔵人頭に初めて任命されたのは、藤原冬嗣・良房の2名である。
  - c 律令制下の八省のうち、詔勅発布に関係するのは中務省である。
  - d 嵯峨天皇の命で『凌雲集』『文華秀麗集』が編纂されるなど、漢文学が盛んになった。

- 問8 藤原氏には不比等から分れた4家があるが、以下のa～dの人物のなかから、藤原薬子と同じ家系に属する者を一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

a 藤原百川      b 藤原清河      c 藤原仲麻呂      d 藤原麻呂

- 問9 以下のa～dの事項のなかから、平城天皇在位の時期に実施された事項としてもっとも適切なものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

a 一紀一班制の開始      b 健児の制の創設  
c 官司の削減と整理      d 胆沢城の創建

- 問10 Dの今様には、当時流行していたある仏教思想が反映している。以下のa～dのなかから、その仏教思想とはもっとも関係の薄いものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

a 空也      b 『往生要集』      c 来迎図      d 最澄

問11 Dの今様に西方の極楽浄土の東門に対しているとうたわれ、多くの念仏信者が集った寺の名は何か。以下のa～dのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 法隆寺            b 四天王寺            c 金剛峰寺            d 延暦寺

問12 Dの今様が収められている『梁塵秘抄』の撰者は、保元の乱当時の天皇でもあった。この人物についての説明としてもっとも適切なものを、以下のa～dのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 篤く仏教を信奉し、平安京東郊に六勝寺を相次いで建立した。  
b 1086年に堀河天皇に譲位すると、院庁を開設して、初めて院政を開始した。  
c 朝廷権威の存続を図ろうとし、源頼朝が征夷大將軍となることを認めなかった。  
d 自らの意のままにならぬものとして、「賀茂川ノ水、双六ノ賽、山法師」の三つを挙げた。

〔Ⅱ〕 つぎの文章を読んで、下記の問いに答えよ。

10世紀に入ると、唐・渤海・新羅の諸国があいついで滅亡し、かわって高麗が朝鮮半島を統一する一方、中国では宋が成立した。日本は唐・渤海・新羅との間に国交を結んだが、この宋や高麗に対しては、正式に国交を開こうとはしなかった。しかし、日宋間の貿易は次第に盛んになり、宋の商人が活発に來航した。日本人僧侶も相次いで宋に渡っている。

12世紀に宋は女真人の建国した金に華北を奪われたが、華中・華南の地を確保した。これを南宋と呼ぶ。日本と南宋との貿易はますます発展し、南宋からの輸入品は日本の社会に大きな影響を及ぼした。日本の商人も南宋や高麗に活発に渡航するようになった。

13世紀に急激に台頭したのがモンゴルである。モンゴルは金や南宋を滅ぼし、高麗を服属させ、さらに東方の日本を攻撃したが、日本の征服には成功しなかった。その戦乱が収まるにともない、貿易が復興するようになった。

14世紀に中国ではモンゴルが北方に追いやられ、明が建国された。このころから日本人を中心とする海賊が朝鮮半島や中国の沿海地方を襲撃するようになる。その被害は甚大であり、高麗が滅亡して朝鮮が建国される原因にもなった。明はこの海賊の禁圧を日本に求めた。

明は国交と貿易を不可分とする政策をとり、日本の国王が明の皇帝に朝貢することを求め、それ以外の通交を認めなかった。15世紀初頭、足利義満はこの明の要求に応じ、みずから「日本国王」として明皇帝の臣下となる形をとって、勘合貿易を実現させた。

問1 下線部 a の宋の成立よりも以前のできごとを以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 平忠常が反乱を起こした。
- イ 藤原純友が反乱を起こした。
- ウ 源高明が大宰府に左遷された。
- エ 尾張国の郡司・百姓が国司の藤原元命を訴えた。

問2 下線部bの日宋貿易とは関係のない地名を以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 博多      イ 明州(寧波)      ウ 堺      エ 大輪田泊

問3 下線部cの入宋僧(南宋を含む)を以下のア～エのなかから一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 重源      イ 蘭溪道隆      ウ 円仁      エ 雪舟

問4 下線部dの女真人によって北九州地方が襲撃された事件の名を以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 三別抄の乱      イ 応永の外寇      ウ 元寇      エ 刀伊の入寇

問5 下線部eについて、南宋からの輸入品が日本の社会に及ぼした影響のうちもっとも重要なことがらを、80字以内で説明せよ。句読点も1字に数える。算用数字は1マスに2字記入してもよい。

下書き用(横書き、20字×4行=80字)→


問6 下線部fのモンゴルが南宋を滅ぼしてから以後のできごとを以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 北条時頼が死去した。
- イ 日蓮が『立正安国論』を幕府に提出した。
- ウ 霜月騒動と呼ばれる事件が起きた。
- エ 慈円が『愚管抄』を著した。

問7 下線部 g に関し、14世紀から15世紀頃の日本と朝鮮との関係について説明した以下のア～エのなかから正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 貿易の独占を狙う細川氏と大内氏の対立が激化し、三浦の乱が起きた。
- イ 室町幕府は朝鮮との貿易を推進したが、国交は結ばなかった。
- ウ 朝鮮を建国した李成桂は足利尊氏に海賊の禁圧を求めた。
- エ 日本は朝鮮から木綿や大蔵経を輸入した。

問8 下線部 h の足利義満について説明した以下のア～エのなかから誤っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 観阿弥と世阿弥は義満の援護を受け、猿楽能を大成した。
- イ 義満が京都北山に建てた金閣には書院造の様式が用いられた。
- ウ 義満は南朝の天皇を京都に帰還させることに成功した。
- エ 義満の死後、朝廷は義満に太上天皇の称号を贈ろうとしたが、幕府はこれを辞退した。

問9 下線部 i の勘合貿易について説明した以下のア～エのなかから正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 勘合船は寧波に入港し、朝貢品は北京に運ばれた。
- イ 勘合とは朝貢船の証明書であり、室町幕府が発行した。
- ウ 足利義持は將軍就任と同時に勘合船の派遣を中止したが、のちに方針を改め、派遣を再開した。
- エ 勘合船の派遣は明が滅亡するまで続いた。



〔Ⅲ〕 つぎの文章を読んで、下記の問いに答えよ。

家康没後の1617年、將軍徳川秀忠<sup>(1)</sup>は大名・公家・寺社に領知の確認文書を出し、徳川氏が国土の支配者であることを示すとともに、幕府法令に違反した大名を改易<sup>(2)</sup>するなど、將軍の力を誇示した。秀忠は1623年には、將軍職を子の家光に譲り、大御所として幕府の基盤強化につとめた。このなかで、幕府はキリスト教の禁教政策を推し進め、また貿易の利益を独占するため外国船の寄港地を制限し、1624年には  船の来航を禁止した。しかし、殉教する信者や日本に潜入する宣教師があとをたななかった。さらに秀忠は、天皇が幕府に相談せずに高僧に紫衣をあたえたことを問題にし、これに抗議した沢庵<sup>(3)</sup>らを処罰した。1629年、この紫衣事件を契機に、後水尾天皇は幕府の同意を求めずに突然讓位し、明正天皇<sup>(4)</sup>が即位することとなった。

秀忠の死後、家光は幕府政治を主導し、1635年、新たに武家諸法度<sup>(5)</sup>を發布し、大名には国元と江戸とを1年交代で往復させる参勤交代を義務づけた。また幕府の職制は家光のころにほぼ整い、政務を統轄する老中<sup>(6)</sup>に大名統制・外交・財政などを担当させ、老中を補佐する若年寄には旗本・御家人の統制にあたらせた。そのほか寺社奉行・町奉行・勘定奉行の三奉行がおかれてそれぞれの職掌も固まったが、独自に決裁できない重要事項や管轄のまたがる訴訟などは  で老中や三奉行らが合議して裁決した。地方組織には、朝廷の統制などにあつた京都所司代、直轄都市の支配を担当した城代・町奉行・奉行(いわゆる速国奉行)、その他の直轄領支配のために配置された郡代・代官などがあつた。幕府直轄領は18世紀には約  万石で、畿内・関東などの要地に多く分布していた。

さらに家光の時代には、キリスト教の禁教策を徹底するために、海外渡航や貿易に制限が加えられるようになった。1633年には奉書船以外の日本船の海外渡航と海外在住  年以上の日本人の帰国を禁じ、1635年には日本人の海外渡航と在外日本人の帰国を全面的に禁止した。その後発生した島原の乱により、幕府はキリスト教への警戒感を深めて外国船の寄港地をより制限し、1641年には平戸のオランダ商館を長崎の出島に移し、いわゆる鎖国<sup>(7)</sup>の状態となった。

家光のあとをついだ徳川家綱が4代將軍となり、はじめ叔父の保科正之<sup>(8)</sup>らが補

佐し、のちには大老酒井忠清が実権をふるった。平和が続くなかで、この時期の重要な政治課題となったのは、これまでの大名改易により数多く発生した牢人や、秩序におさまらない「かぶき者」の対策であった。1651年、兵学者由井正雪の乱がおこると、幕府は大名の末期養子の禁止を緩和し、牢人の増加に歯止めをかけるとともに、かぶき者の取締りを強化した。

幕府政治は、このころから武力だけにたよらず、儒教をもとに徳をもっておさめることを政治理念とする文治主義的傾向が強まった。諸藩でも、藩主が儒者を顧問にして藩政の刷新をはかり、熊沢蕃山<sup>(9)</sup>を登用した備前岡山の池田光政、『大日本史』を編纂した常陸水戸の徳川光圀、木下順庵を招いた加賀金沢の前田綱紀らは名君として知られている。

問1 下線部(1)の人物の将軍在任中の事項でないものを以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |            |                 |
|------------|-----------------|
| ア 糸割符制度の創設 | イ 大坂の役による豊臣氏の滅亡 |
| ウ 島津氏の琉球征服 | エ 禁中並公家諸法度の発布   |

問2 下線部(2)に関連して、徳川秀忠の将軍在任中に改易された大名を以下のア～エのなかから一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |        |        |         |        |
|--------|--------|---------|--------|
| ア 前田玄以 | イ 小西行長 | ウ 小早川隆景 | エ 福島正則 |
|--------|--------|---------|--------|

問3 下線部(3)の人物が紫衣事件で処罰されたときに住持をつとめていた寺の名前を以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|
| ア 方広寺 | イ 天竜寺 | ウ 興福寺 | エ 大徳寺 |
|-------|-------|-------|-------|

問4 下線部(4)の人物に関連する説明として誤っているものを以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 明正天皇の母は、建礼門院徳子であった。
- イ 明正天皇は、後陽成天皇の孫であった。
- ウ 明正天皇の外祖父は、徳川秀忠であった。
- エ 明正天皇は、江戸時代になってはじめての女性天皇であった。

問5 下線部(5)の説明として誤っているものを以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 元和の武家諸法度は、1615年、伏見城に諸大名を集めて公布された。
- イ 元和の武家諸法度は、將軍の命令により儒学者の林羅山が起草した。
- ウ 寛永の武家諸法度は、新たに大船建造の禁止を規定した。
- エ 寛永の武家諸法度は、元和のものより条文の数が多かった。

問6 下線部(6)の役職に就任していない人物を以下のア～エのなかから一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 荻原重秀      イ 安藤信正      ウ 堀田正陸      エ 松平信綱

問7 空欄  にあてはまる数字を以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 200      イ 300      ウ 400      エ 500

問8 空欄  にあてはまる数字を以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 3      イ 5      ウ 7      エ 10



〔Ⅳ〕 つぎの文章を読んで、下記の問いに答えよ。

今から100年前、1912年7月、明治天皇が死去した。明治天皇は、幕末の(A)  
天皇の死去をうけて即位し、<sup>(1)</sup>幕末・維新の動乱を経験し、その後、大日本帝国憲  
法の制定、<sup>(2)</sup>帝国議会の開設など立憲政体の創設や、<sup>(3)</sup>日清戦争・日露戦争などの重  
大事を君主として取り扱った。

もっとも、大日本帝国憲法は天皇が定め、国民にあたえる欽定憲法とされたが、  
実際には、伊藤博文らの官僚が制定作業にあたったことは、当時においても関係  
者のよく知る<sup>(4)</sup>ところであった。したがって、伊藤らが関わり、伊藤の私著として  
刊行された、憲法の解説書ともいべき『憲法義解』は、憲法の条文を解釈する上  
で重要視された。

帝国議会の運営においても、日清戦争前の初期議会において、藩閥政府と衆議  
院が対立した場合、<sup>(5)</sup>衆議院に対して天皇が停会の詔勅を発することがあったが、<sup>(6)</sup>  
これも天皇がいわゆる藩閥政府の意向をふまえてとった措置であった。たとえば、  
第4回帝国議会では、第2次伊藤博文内閣と衆議院が対立したが、1893年2月、  
天皇が詔書を発して、その対立をおさめたことがあった。天皇は、みずから宮廷  
費を節約して6年間毎年30万円を下付し、また文武官の俸給の10分の1を軍艦建  
造費にあてるとして、衆議院の内閣への協力をうながしたが、それが功を奏した  
のである。この場合も、事前に内閣は天皇に対し、内閣に協力するよう衆議院に  
求める勅答を発する案をとるか、あるいは衆議院を解散する案をとるか、両案を  
提示していたのである。したがって、この場合も藩閥政府の意向をふまえていた  
ことになる。

日清戦争の開戦後まもなく、天皇は自分が望んだ戦争ではないと側近に不満を  
<sup>(7)</sup>もらしたこともあったが、広島に移された大本営に赴き、戦争指導の現場にいつ  
づけた。その後、大國ロシアとの戦争にも、不安と緊張を高めたが、1904年2月  
開戦を決定した御前会議では裁可者としてふるまった。日本は戦勝を重ねたもの  
<sup>(8)</sup>の、戦争が長期化すれば人員や軍需品、戦費などにおいて日本は苦境に立つこと  
<sup>(9)</sup>が予想された。しかし、アメリカ合衆国のセオドア・ローズヴェルト大統領の斡  
旋によって、1905年9月に講和条約の調印に至った。日本は、ロシアから賠償金

を得ることはできなかったものの、韓国に対する支配権や割譲地などを得た。戦勝国の君主として明治天皇は国際的に評価された。

しかし、日露戦争中の過労は、明治天皇の健康を害することとなったといわれている。明治天皇が死去する前、その体調不良について尿毒症と公表されたが、<sup>(10)</sup>それ以前に糖尿病をわずらっており、その後慢性腎炎を併発していた。

明治が終わり、新しい元号は大正とされた。明治時代の終焉を悲しむ世相は、その後大正新時代の到来を歓迎する世相へとかわった。

陸軍の2個師団増設案をめぐる混乱、そして第3次桂太郎内閣の登場に反発する<sup>(11)</sup>護憲運動と短期間での内閣総辞職など大きく変動する政局は、新時代の幕開けの一面といえそうである。

問1 下線部(1)について、誤っているものを以下のa～dのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 明治天皇は、1868年に即位の礼をあげた。
- b 明治天皇は、1872年から1885年にかけて、地方を巡幸した。
- c 明治天皇は、日露戦争後、体調不良のために皇太子を摂政として政務をとらせた。
- d 明治天皇は、1889年2月11日皇居で黒田清隆内閣総理大臣に憲法をさずけた。

問2 下線部(2)について、この動乱と関係のないものを以下のa～dのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 会津戦争
- b 二・二六事件
- c 大村益次郎襲撃事件
- d 箱館五稜郭の戦い

問3 下線部(3)について、その内容として誤っているものを以下のa～dのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 天皇は憲法の条規に制約されないとしている。
- b 天皇は統治権を総攬するとしている。
- c 天皇は陸海軍を統帥するとしている。
- d 帝国議会は衆議院と貴族院からなるとしている。

問4 下線部(4)について、これに該当するもっとも適切な人物を以下のa～dのなかから一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 吉野作造      b 美濃部達吉      c 穂積八束      d 伊東巳代治

問5 下線部(5)について、この時期に内閣総理大臣をつとめた人物を以下のa～dのなかから一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 青木周蔵      b 陸奥宗光      c 松方正義      d 品川弥二郎

問6 下線部(6)について、誤っているものを以下のa～dのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 衆議院において、藩閥政府を批判する政党は民党と称された。
- b 衆議院において、民党は、政費節減や民力休養を主張した。
- c 衆議院は、第1議会において次年度の予算案をめぐって藩閥政府と対立し、解散を命じられた。
- d 第5および第6議会では、対外硬派連合による条約改正問題で衆議院は紛糾し、解散を命じられた。

問7 下線部(7)について、正しいものを以下のa～dのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 寺内正毅司令官の指揮の下で旅順要塞の攻略に半年以上を要し、多大の犠牲を出した。
- b 枢密院議長であった山県有朋は、第1軍司令官として出征した。
- c 山本権兵衛司令官の指揮により連合艦隊が清国の北洋艦隊を撃滅した。
- d 石原莞爾関東軍参謀の謀略により豊島沖の海戦から戦争が始まった。

問8 下線部(8)について、誤っているものを以下のa～dのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 北清事変を機に中国東北地方(満州)をロシアが事実上占領したことは、韓国に権益を有する日本を刺激した。
- b 伊藤博文はロシアとの協調を求めて日露協商論を提唱した。
- c 岩倉具視外務大臣は強硬な対露開戦論者であった。
- d 桂太郎内閣総理大臣はイギリスと同盟して韓国における権益を守る強硬方針をとった。

問9 下線部(9)について、正しいものを以下のa～dのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 1904年8月、日本の陸軍は旅順を直ちに完全制圧した。
- b 1904年10月、日本の連合艦隊は黄海海戦で勝利をおさめた。
- c 1905年3月、日本の陸軍は威海衛を制圧した。
- d 1905年5月、日本の連合艦隊はロシアのバルチック艦隊を全滅させた。

問10 下線部(10)について、死去する前の明治天皇の治療にあたった医師を以下のa～dのなかから一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 三浦謹之助      b 緒方洪庵      c 杉田玄白      d 青木昆陽



問11 下線部(A)について、誤っているものを以下の a～d のなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 2 個師団増設要求が実現しなかった上原勇作陸軍大臣は、単独辞職した。
- b 西園寺公望内閣総理大臣は、財政難から 2 個師団増設要求を受け入れなかった。
- c 宮内大臣であった桂太郎が内閣総理大臣に就任することに社会的批判が起きた。
- d 衆議院で尾崎行雄議員は、桂太郎内閣総理大臣をきびしく批判した。

問12 「(A)天皇」について、正しいものを以下の a～d のなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 1860年に妹和宮と江戸幕府の将軍徳川家茂の結婚を勅許した。
- b 1865年に江戸幕府が要請した条約勅許を拒絶した。
- c 1866年に結ばれた薩摩藩と長州藩の軍事同盟の密約(薩長同盟)を勅許した。
- d 1868年に兵庫開港を勅許した。